

保健体育

保健体育科においては、運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決のための活動の充実を図ること、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意することが大切です。

◆ 「内容のまとめり」の考え方

保健体育科における「内容のまとめり」は、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」「2 内容」に次のように示されています。

(例)〔体育分野 第3学年〕	
A 体づくり運動	E 球技
B 器械運動	F 武道
C 陸上運動	G ダンス
D 水泳	H 体育理論 (1)文化としてのスポーツの意義

◆ 内容のまとめりごとの評価規準の作成

①学習指導要領に示された教科及び学年、分野の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを確認します。

※「評価の観点及びその趣旨」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「改善等通知」(別紙4 19ページ)を参照してください。

②保健体育科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認します。

③観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準を作成します。

※「観点ごとのポイント」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「中学校保健体育(31ページ)」を参照してください。

【第3学年「ダンス」の内容のまとめりごとの評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。 フォークダンスでは、日本の民謡や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、 	<ul style="list-style-type: none"> 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。

◆ 単元の評価規準の作成

体育分野では、指導内容を一層明確にするため、学習指導要領解説において、「内容のまとめり」ごとに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容の全てに例示されています。

- ①「内容のまとめりごと」に例示の文末を変えるなどして、全ての「単元の評価規準」を作成します。
- ②「単元の評価規準」は、全ての「単元の評価規準」から当該単元に該当する内容を選択するなどして設定します。

【第3学年「ダンス(創作ダンス)」の単元の評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ダンスには、身体運動や作品創作に用いられる名称や用語があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②それぞれの踊りには、その踊りの特徴と表現の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 ③それぞれのダンスの交流や発表の仕方には、簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること、見る人 	<p>○技能</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「出会いと別れ」では、すれ違ったりくっついたり離れたりなどの動きを、緩急強弱を付けて繰り返し表現することができる。 ②「大回りー小回り」では、個や群で大きな円や小さな円を描くなどを通して、ダイナミックに空間が変化するように動くことができる。 ③気に入ったテーマを選び、ストーリー性のあるはこびで 	<ol style="list-style-type: none"> ①それぞれのダンスに応じて表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。 ②健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ③体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。

※例示を参考に評価規準を作成します。

- ・「知識」については、文末を「～について言ったり書き出したりしている」「～について、学習した具体例を挙げている」として、評価規準を作成します。
- ・「技能」については、文末を「～ができる」として、評価規準を作成します。
- ・「思考・判断・表現」については、文末を「～している」として、評価規準を作成します。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的に「～しようとしている」として評価規準を作成しますが、健康・安全に関する内容については、「～に留意している」「～を確保している」として作成します。

◆ 学習評価に関する事例

1 単元名

「ダンス（創作ダンス）」（第3学年）

2 内容のまとめ

第3学年「G ダンス」（全16時間）

3 単元の目標

(1) 次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をできるようにする。

ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができるようにする。

(2) 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(3) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

4 単元の評価規準

※前ページ【「ダンス（創作ダンス）」の単元の評価規準（例）】を参照

5 指導と評価の計画（16時間）

時間	主な学習活動・内容	評価の重点（評価方法）			
		知	技	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート結果の共有 （「自分や仲間のよさを生かして、ダンスを楽しく踊ろう」をねらいとした事前アンケートの結果） ・アンケート結果をもとに「共生」に関する汎用的な知識の定着 ・共生に関する意義や価値の理解 ○リズムに乗って交流 ○ペアで見せ合い 	① (カード)			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとの作品づくり <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活や日常動作 ・個性や長所を生かした簡単な作品 ・緩急強弱のある動きや空間の使い方や場面の転換などで、変化を付けたひと流れの動き ・仲間同士の模倣 等 ○グループ間での見せ合い・発表 	② (カード) (観察)			② (観察)
9	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとの作品づくり <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの設定 ・ストーリーの設定 ・「はじめとおわり」でひとまとまりの動きを考える ○グループごとの練習 ○グループ間での見せ合い ○本時の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・共生に関わる内容について学習カードに記入 			③ (カード)	
16	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの確認 等 ○ダンス発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの発表 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 総括的な評価 </div>			

【POINT】
「学びに向かう力、人間性等」については、各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通事項とし、公正、協力、責任、参画、共生の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示されています。

【POINT】
ダンスでは、共通事項に加え、協力、参画、共生が重点化して示されていますが、本事例では「共生」について重点的に指導し、評価するようにしています。

【POINT】
2時間目の「主体的に学習に取り組む態度」の「共生」の評価について、その後の授業の中の働き掛けや、関連する「思考力・判断力・表現力等」の指導による行動の変化等を加味して評価を修正することができるよう、指導と評価の計画を工夫します。

【POINT】
学習カードは、1、2時間目の学習と関連付け、例えば、「一人一人の違いに配慮した活動の仕方」についてどのように取り組むかなどを記入させることにより、「共生」の価値を理解し、自らの意思として行動化することにつながられるようにします。

※ 〃は主体的に学習に取り組む態度の「共生」に係る学習活動・内容です。